

令和 4 年度 (2022) 共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名 和文：惑星物質科学のフロンティア 英文：Frontier of the planetary material science
研究代表者 馬上 謙一 参加研究者 大澤 崇人 (JAEA), 村上 登志夫 (学習院大), 早川 岳人 (QST), 丸岡 照幸 (筑波大), 小長谷 智哉 (東京大), 松本 徹(京都大), 大槻 悠太 (北大), 二村 徳宏 (日本スペースガード研究センター), 和田 壮平 (北大), 海老原 充 (都立大), 佐々木 昌 (大阪大), 寺田 健太郎 (大阪大), 岡崎 隆司 (九州大), 山本 大貴 (九州大)
研究成果概要 2023 年 3 月 2 日 14:00 より, 宇宙線研究所大会議室にて研究会を開催した. オンラインで会場と各参加者を繋ぎ, 質疑応答をおこなった. 10 件の口頭発表があり, ひとり, 30 分の持ち時間での発表および質疑応答を行った. 下記に研究会の詳細を示す. 3 月 2 日 14:00-14:30 和田 壮平 (北海道大学) Northwest Africa 801 隕石に含まれる金属鉄と水酸化鉄粒子の太陽風ヘリウムイメージング 14:30-15:00 大槻 悠太 (北海道大学) 月イルメナイトに記録された太陽風起源希ガス深さ方向分布 15:20-15:50 松本 徹 (京都大学) 宇宙風化を中心とした小惑星リュウグウ試料の電子顕微鏡による分析 15:50-16:20 小長谷 智哉 (北海道大学) 宇宙風化作用を経験したイトカワ粒子表面の太陽風ヘリウム分布 16:40-17:10 早川 岳人 (量子科学研究開発機構) 核時計 ^{176}Lu の半減期問題 17:10-17:40 海老原 充 (東京都立大学) 精密ランタノイド存在度が明かすコンドライト母天体形成過程

3月3日

10:00-10:30 二村 徳宏 (日本スペースガード研究センター)

タンデム惑星形成論による岩石惑星の誕生と進化

10:30-11:00 大澤 崇人 (日本原子力研究開発機構)

リュウグウ試料の即発 γ 線分析

11:20-11:50 丸岡 照幸 (筑波大学)

白亜紀末隕石衝突直後の古環境推定:局所親銅元素組成によるアプローチ

11:50-12:20 馬上 謙一 (北海道大学)

LIMASを用いたヘリウムイメージング

12:20- ビジネスミーティング

整理番号 I05